

平成 22 年 5 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19560630

研究課題名（和文）フランスにおける新規建築物のデザインマネジメント

研究課題名（英文）A study of the Design Management about New Building in France

研究代表者

赤堀 忍（AKAHORI Shinobu）

芝浦工業大学・工学部・教授

研究者番号：10327760

研究成果の概要（和文）：

本研究は、フランスにおける新たな建物のデザインマネジメントを通し、都市景観の保全的刷新を考察することを主目的とし、①新たな建築物のデザインコードの策定・運用と、それに対する建築家の対処、②マスターアーキテクトの役割と、つくられた都市空間、③古い建物に対する改修方法と現実、④広場や街路等の整備における、地域の文脈を織込んだ現代的デザインの実現について、現地・文献調査を通して、その実態を明らかにし、学会・雑誌発表を通して、その知見を多くの人々に紹介した。

研究成果の概要（英文）：

The present study is a main purpose of maintained reform of the cityscape through the design management in a new building in France. This study clarified through the locale and documentation research, ①the decision the operation of the design code for the new building and a reaction of an architect, ②the roles of the master architect and the urban space made, ③the method of the renovation on the old building, ④the realities of achievement of a modern design that wove the context in the region for the maintenance of the public space. And we presented the academy society and the magazine announcement.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学、都市計画・建築計画

キーワード：(1)景観計画 (2)フランス (3)都市デザイン (4)デザインマネジメント  
(5)マスターアーキテクト (6)ランドスケープ (7)再開発 (8)公共空間

## 1. 研究開始当初の背景

(1)日本で2004年6月に景観法が制定され、2005年6月から施行されている。これまで市民の自主的な努力や自治体の条例・要綱行政により手探りで行われてきた景観街づくりに、ようやく根拠法ができた。しかし、国土交通省や民間出版社のマニュアルなどを見ると、歴史的環境を有する地域での活用への示唆が多く、このままではふたつの問題が残されたままとなる。

まず、歴史的街並みの中の新規建築物に、しばしば過去の意匠が強制される問題である。これでは、エセ建築がまかりとおる建築芸術の発展が阻害される。次に歴史的環境に比べ、圧倒的に広範囲をしめる一般市街地の景観の改善が進まないと、景観法自体の認知度が上がらない。

景観法が歴史的環境に偏ると、景観街づくりを狭い領域に囲いこんでしまう可能性がある。従って、わが国の都市景観の改善には、歴史的環境保全だけではなく、新規建築物のデザインマネジメントこそが必要ということになる。我々が日々暮らす空間で、まとまりのない新規建築物であふれていることから明らかである。この目的のために景観法を活用すべきだ。

本研究はフランスを対象とする。なぜなら、同国は厳しい規制による歴史的環境保全と同時に現代建築の前衛的表現にも成功し、都市景観の保全的刷新に成功している国の一つだからである。フランスでは、ルネサンスの時代から都市美の追究が法的・社会的に公益に適うとされてきたし、1789年の大革命以

降、歴史的環境保護に先駆的に取り組んだ国でもあり、その結果、都市には創造と保全に対する厳しいルールが布置されてきた。そして、この厳しい規制こそが建築家の創造力をかきたて良質のデザインを産むとさえ言われる。この規則の驚くべき点は、現代建築が統一的街並みの中で自己主張しつつも景観的矛盾がないということである。

古くはエッフェル塔、近年ではポンピドーセンターやルーヴルのピラミッドを巡る景観論争があったが、それらは今日パリの景観の肯定の一部となっている。これは、モンパルナスタワーと違い、単純機能主義にはない芸術性や都市の文脈の継承・創造への意識を有していたからであろう。一方、他の多くの現代建築も、芸術性や都市の文脈を織り込んだ適切なデザインマネジメントにより都市景観の保全的刷新に貢献している。例えば、ジャン・ヌーヴェル設計のアラブ世界研究所は、周囲の建物と同様のボリューム・形態をもちながら、景観的矛盾をおこさずに世界的名声をほこる自己主張に成功している理由は何か、探求すべきである。

本研究は、上記問題意識から圧倒的多数をしめる一般新規建築物を対象とする。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、フランスにおける一般の新規建築物のデザインマネジメントを通じた都市景観の保全的刷新を考察することを主目的とする。さらに、以下の4項目を明らかにすることを下位目的とする：

① 新規建築物のデザインコードがどのよう

に策定・運用され、建築家はどのように対処しているか；

- ② 再開発地区におけるマスターアーキテクト方式がどのように機能し、どのような都市空間が生まれているか；
- ③ 点的な歴史的建造物に対して、現代建築の設計言語によるリノベーションがどのように実施されているか；
- ④ 広場や街路等の公共空間整備に際して、地域の文脈を織込んだ現代的デザインがどのように実現しているか。

(2) 以下に、具体的に説明する。

①では、地域都市計画プラン (PLU) (旧土地占用プラン (POS)) による外観規制の策定・適用とその枠組みの中での建築家による表現の追求を分析する。行政は何を根拠に規制を策定しているのか、街並み形成にかかわる本質的ルールは何だと考えられているのか、市民との合意形成はどのように行われるのか、建築家はその枠組みをどう捉えているのか、そしてどのような設計を行うことで周囲との景観的矛盾がない反面、前衛的な表現に到達するのか、明らかにする。

②では、協議整備区域 (ZAC) 創設に際し、採用されるマスターアーキテクト方式による都市空間の創出を分析する。調整建築家は何を手がかりにルールを決めるのか、そこに行政や事業者はどう関わっているのか、建築家達はルールに服従するのか、それとも優れた表現であれば逸脱も許されるのか、あるいは途中で調整建築家にルールの変更を迫ることができるのか、できあがった空間はどう評価されているのか、明らかにする。

③では、一般市街地に点的に残された歴史的建造物活用のための現代建築設計の試みを分析する。フランスではその活用のためにどのような転用プログラムを考案しているのか、オーセンティシティを保ちつつも大胆な現代建築として再生してゆく上でどのような設計手法があるのか、文化財保護行政側

としかなる調整が必要なのか、明らかにする。

④では、従来全国一律の標準設計に依存してきた土木的空間整備に対する建築家の取り組みを分析する。歴史的広場などを現代的設計で再整備する際に設計競技がしばしば実施されるが、行政は設計要綱をどのようなコンセプトで策定しているのか、建築家はそれを前提にどのような前衛的表現を試みているのか、どのような基準で優秀案が選ばれるのか、実施設計の段階で行政と建築家の間でどのような葛藤があるのか、明らかにする。

新旧の空間が緊張感をはらみつつ調和した街並みを実現するための都市のデザインマネジメントを、既往研究や多くの事例の吟味、そして建築家・行政担当者への聞き取り調査や資料収集から明らかにし、その原理を抽出することで、日本の景観街づくりへの新たな局面を示唆することを目的とする。

### 3. 研究の方法

#### (1) 全期間を通じた研究方法

本研究は 1983 年から 2008 年までの約 25 年間のフランス建築雑誌 AMC の建築と都市整備計画に関する文献調査の上、都市ごとにまとめて基礎資料とし、調査地を選定し、現地調査、経済混合会社の実務担当者および建築家に聞き取り調査を行ない、研究をすすめた。

(2) 「研究目的」に掲げた 4 項目に対応した研究手法は、以下のとおりである：

- ① 土地占用プラン (POS) や地域都市計画プラン (PLU) の文書や図書の収集。行政内部のデザインコード策定者への聞き取り調査・資料収集。建築家への聞き取りや、当局との協議を通じた設計過程の変遷を示す図面などの入手；
- ② 実施主体である混成経済株式会社 (SAEM) の担当者への聞き取り調査や資料収集。マスターアーキテクトへのデザインガイドライン策定過程や各建物の担当建築家

との調整技法の聞き取り・資料収集。各建物の担当建築家に対する調整建築家との調整を通じた設計過程の変遷を示す図面などの入手。雑誌記事などによる作品への批評の収集；

- ③ 一般市街地に残る歴史的建造物が現代建築の設計言語で活用された事例の収集。その改装にかかわった建築家や行政担当者への聞き取り調査と資料の入手；
- ④ 公共空間整備発注主体の担当者に対するデザインガイドラインなどに関する聞き取り調査や資料収集。設計担当者への聞き取り調査や、当局との協議をつうじた設計過程の変遷を示す図面などの入手。わが国の建築・都市計画実務への情報提供のため、各プロジェクトに関し、事業主体、決定主体、計画期間、設計体制、合意形成手法、計画費用、雑誌記事などの作品への批評など、詳細なデータを入力・整理する。

#### 4. 研究成果

(1) 約25年間のフランス建築雑誌AMCの建築と都市整備計画に関する文献調査の上、都市ごとにまとめて基礎資料とした。現地調査、および建築家・経済混合会社の実務担当者、建築家等に聞き取り調査を行なった。

(2) フィールド・ワーク

- 2007年11月(赤堀・鳥海)：パリ、リヨン、リール、マルセイユ
- 2008年9月(赤堀) ナント、リヨン、ニース
- 2008年11月(赤堀・鳥海)：ナント、カンペール、パリ
- 2008年12月(鳥海)：リヨン、パリ、デファンス
- 2009年1月(鳥海)：トゥールーズ、モンペリエ、パリ
- 2009年3月(赤堀・鳥海)：プレーヌ・サン・ドウニ、ストラスブール、マルセイユ、エクス・アン・プロヴァンス、アヴィニオン、ヴァランス、パリ、
- 2009年8月(赤堀)：レンヌ、サン・ジャック・ド・ラ・ランド、ブレスト、ブローニュ・ビヤンクール
- 2009年12月(赤堀)：パリ、ブローニュ・ビヤンクール

上記の①、②、④に重点を置き、各都市で調査を行い、パリに関しては1区レ・アール、13区セーヌ左岸地区、17区ポルト・ダニエール、19区ポルト・ドウ・リラ、20区ラ・レユニオン、パリ郊外新都市のラ・デファンスの業務地区、ブローニュ・ビヤンクールの都市整備地域を調査。リヨンでは中心市街地の公共空間整備の実態を現地調査、リヨン・コンフラン整備地区の開発状況の調査。リールではユーラリール地区の開発状況と集合住宅、およびその公共空間を調査。マルセイユではユーロミディテラネ地区の開発状況、建築遺産の再利用と整備された集合住宅の街区を調査。ナントではナント島の開発状況、産業遺産の再利用とマラコフ地区の開発状況、集合住宅のリノベーションによる都市開発を調査。ニース、ストラスブール、ボルドーはトラムウェイによる公共空間整備の実態を調査。

各都市整備地区にはマスターアーキテクトが選出され、彼によって作成された都市および建築空間の仕様書が建築物のデザイン、公共空間のデザインの大きな方向付けがなされている。そして、各建築家はその仕様書をもとに建築をデザインしているという流れがある。ブローニュ・ビヤンクールではマスターアーキテクトの上に調整都市計画家が大街区のグランドデザインをしている。

各都市とも移動手段の変化によって都市空間を大きく変化させている。環境問題を考え、自動車移動からトラムウェイと自転車による移動へ変えることによって、公共空間に大きな変化が現れている。

(3) 文献・資料収集

フランスでも同様の問題意識を持ち公刊されるものが数多いことを確認し購入した。とりわけ、ランドスケープ・アーキテクトが都市デザインに参画することが増え、これまでにはないモノグラフィが出版され始めていることが分かった。また、公共空間整備や

インフラストラクチャーのデザイン・マニュアルを収集した。

(4)学会発表

下記[学会発表]に記すように、これまでのフィールド・ワークを実施した都市デザインに関して、日本建築学会大会にて発表。

(5)雑誌発表

下記[雑誌論文]に記すように、リール、パリ、ナント、デファンス、ボルドーの都市デザインの実態を2008年11月から『新建築』誌上にて「フランスの現代都市デザインを巡る」と銘打ったルポルタージュを連載した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

①赤堀忍 FH 建築セミナー「フランスの都市空間、ユーラリールの20年」、新宿センタービル 26階プレゼンテーションルーム、2008年12月9日

[雑誌論文] (計9件)

①赤堀忍：「鉄道廃線から生まれた「緑の遊歩道」プロムナード・プランテ」CHIKAI 302、2009SUMMER、pp18-19

②赤堀忍、鳥海基樹：「Projets Urbains Français フランスの現代都市デザインを巡る 第6回 ブリコラージュ・シティをめざすリヨン」新建築4月号、2009年3月、pp195-198

③赤堀忍、鳥海基樹：「Projets Urbains Français フランスの現代都市デザインを巡る 第5回 ボルドー 公共空間の植栽と光による演出」新建築3月号、2009年2月、pp215-218

④赤堀忍、鳥海基樹：「Projets Urbains Français フランスの現代都市デザインを巡る 第4回 デファンスからオフセンスへ」新建築2月号、2009年1月、pp201-204

⑤赤堀忍、鳥海基樹：「Projets Urbains Français フランスの現代都市デザインを巡る 第3回 地方都市ナントの時間をかけ

た取り組み」新建築1月号、2008年12月、pp182-185

⑥赤堀忍、鳥海基樹：「Projets Urbains Français フランスの現代都市デザインを巡る 第2回 グラン・プロジェに隠された地道な都市デザイン」新建築12月号、2008年11月、pp210-213

⑦赤堀忍、鳥海基樹：「Projets Urbains Français フランスの現代都市デザインを巡る 第1回 ユーラリールの20年」新建築11月号、2008年10月、pp178-183

⑧赤堀忍：「建築家は「建築法」で規定、責任の重さは市民意識の高さの表れ」、特集「世界に学べ！建築家法」、建築ジャーナル、2008年11月、pp.36-37

⑨赤堀忍：「発展を続ける新都市 ラ・デファンス」、「都市の考察」第1回、『建築家』5、JIA、2008、p19

[学会発表] (計13件)

①赤堀忍、鳥海基樹：「ニース市のトラムウェイ導入に共振させた公共空間整備に関する研究 フランスに於ける現代都市デザインに関する研究 その8」、日本建築学会大会 学術講演梗概集 F-1、2009、pp.435-436

②赤堀忍、鳥海基樹：「パリ第20区ラ・レユニオン協議整備区域の保全的刷新型都市デザインに関する研究 フランスに於ける現代都市デザインに関する研究 その9」、日本建築学会大会 学術講演梗概集 F-1、2009、pp.437-438

③茂木真由美、赤堀忍、鳥海基樹：「パリ第17区ポルト・ダニエール協議整備区域のデザインマネジメントに関する研究 フランスに於ける現代都市デザインに関する研究 その10」、日本建築学会大会 学術講演梗概集 F-1、2009、pp.439-440

④吉田詩織、赤堀忍：「マルセイユ港湾の整備における公共空間について フランスに於ける現代都市デザインに関する研究 その

11]、日本建築学会大会 学術講演梗概集 F-1、2009、pp. 441-442

⑤葦原円花、赤堀忍：「イル・ド・ナントにおける再開発計画に関する研究 フランスに於ける現代都市デザインに関する研究 その12」、日本建築学会大会 学術講演梗概集 F-1、2009、pp. 443-444

⑥鈴木徹郎、赤堀忍：「ナント・マラコフ地域の再開発デザイン手法に関する研究 フランスに於ける現代都市デザインに関する研究 その13」、日本建築学会大会 学術講演梗概集 F-1、2009、pp. 445-446

⑦赤堀忍、鳥海基樹：「協議整備区域セガン島 - セヌ河岸の都市デザイン フランスに於ける現代都市デザインに関する研究 その1」、日本建築学会大会 学術講演梗概集、F-1、2008、pp. 661-662

⑧鳥海基樹、赤堀忍：「2006年デファンス地域再始動プランと持続可能性を切り札とした世界戦略に関する研究 フランスに於ける現代都市デザインに関する研究 その2」、日本建築学会大会 学術講演梗概集、F-1、2008、pp. 663-664

⑨斎藤聡、赤堀忍、鳥海基樹：「パリ・セヌ左岸協議整備区域に於けるデザインマネジメントに関する研究 フランスに於ける現代都市デザインに関する研究 その3」、日本建築学会大会 学術講演梗概集、F-1、2008、pp. 665-666

⑩井上陽介、赤堀忍、鳥海基樹：「ユーラリール・プロジェクトの経緯と現状 フランスに於ける現代都市デザインに関する研究 その4」、日本建築学会大会 学術講演梗概集、F-1、2008、pp. 667-668

⑪北山信太郎、赤堀忍、鳥海基樹：「ユーラリール・プロジェクトに見る集合住宅と公共空間が生み出す特性について フランスに於ける現代都市デザインに関する研究 その5」、日本建築学会大会 学術講演梗概集、F-1、2008、pp. 669-670

⑫峯 英幸、赤堀忍、鳥海基樹：「リヨンに於ける公共空間と交通の再編の現在 - フランスに於ける現代都市デザインに関する研究 その6」、日本建築学会大会 学術講演梗概集、F-1、2008、pp. 671-672

⑬安蒜和希、赤堀忍、鳥海基樹：「リヨン・コンフレアンス再開発プロジェクトにみるデザインマネジメント フランスに於ける現代都市デザインに関する研究 その7」、日本建築学会大会 学術講演梗概集、F-1、2008、pp. 673-674

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

赤堀 忍 (AKAHORI Shinobu)  
芝浦工業大学・工学部・建築工学科・教授  
研究者番号：10327760

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

鳥海 基樹 (TORIUMI Motoki)  
首都大学東京・都市環境科学研究科・准教授  
研究者番号：20343395